

5. 「企業市民活動推進センター」事業

— コンサルテーション、社員・組合員のV体験、NPOとのコーディネート

「企業市民活動推進センター」(Center for Corporate Citizenship, CCC)は、日本生命財団の助成を受けて、1991年に開設。以来、「企業市民」活動（いわゆる、企業のCSR推進、社会貢献活動）の専門推進機関として活動している。

主な機能は、①CSRを含む「企業市民」活動全般のコンサルタントと研究会の開催、②社員・OB等の市民活動支援のための総合的支援・プログラム提供、③NPOと企業(人)のパートナーシップ作りのためのコーディネート、④社会的責任に関するNPO/NGOからの発信を柱に事業を進めている。

各企業のCSR方針や社会貢献活動のねらいに応じて、実行に移せるよう、具体的な活動先・支援先をコーディネートすることを重視している。

1. コンサルテーション事業

企業市民活動推進センター(CCC)は、社員に自己実現の機会を提供し、NPOを通じて地域社会を活性化させ、企業市民活動に熱心な企業への社員や地域社会(顧客)の共感を高めるコーディネート機関・ファシリテート機関として、以下のようなニーズにそれぞれ応えている。

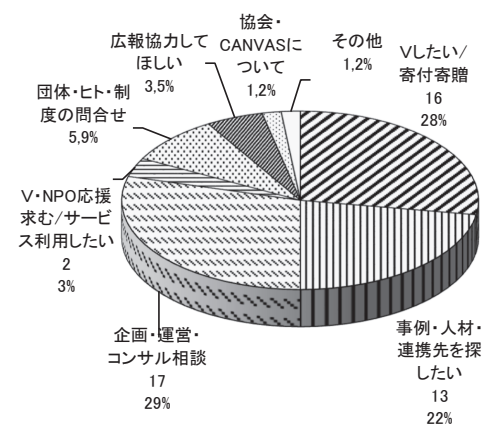
(1) 企業市民活動推進センターへの相談対応

2020年度にセンターが受けた相談内容を図5-1で示す。相談件数は58件(前年度70件)であった。そのうち企業からの相談は、47件(同62件)で全体の81.0%(同88.6%)を占める。

相談内容は、大きく三分され、一つはコーディネート(つなぐ)相談(31件、53.4%)、次に企業等がCSRや社会貢献活動を推進するうえでの企画・コンサルティング相談(17件、29.3%)、最後に、協会事業等の問合せ他(10件、17.2%)である。

このうち、コーディネート相談の主な例は、「支社・部署でボランティア活動をしたいので活動先の紹介を」「〇〇を寄贈したい、被災地に寄附をしたい」「〇〇のテーマで講師を紹介して欲しい」といった内容で、相談者がつながりたい相手をコーディネーターが探し、提案している。なお、「ボランティアしたい」という相談は初めて窓口を利用する企業等が多く、「企画・コンサル相談」は関係性のある企業からのものが多い。

図5-1 相談内容 N=58



相談内容(相談者の主訴)例	対応プロセスと結果
【SDGsに関連する取り組みについて】 ホテルからの相談。SDGsの観点から独自の取り組みができないか考えている。内容について相談したい。	ホテルで無料配布しているお菓子や、朝食のパンなどを障害者の作業所のものに変更する案や、宿泊料金に寄付付きプランを新たに設けるなど複数のアイデアを提案。障害者の作業所との連携は具体的に話が進むことに。
【寄付つきアンケートの寄付先について】 全国の顧客を対象にアンケートを実施予定で、アンケートの回答数に応じて寄付をしたいと考えている。新型コロナに関連する寄付先があれば教えて欲しい。	「みんなおんなじ空の下」で連携した「47コロナ基金」であれば、全国を網羅しているので、地域ごとの寄附をしやすいのではないかとご紹介する。
【災害時のボランティア活動について】 労働組合からの相談。災害時に労働組合としてどのような支援ができるのか相談したい。	担当者との打合せを経て、労働組合の役員を対象とした研修を実施することに。労働組合が社会貢献を実施する意義等をテーマに話題提供を行う。

（2）企業市民活動推進等の企画への助言やコンサルティング

企業市民活動推進センター（CCC）では、企業の社会貢献プログラムの企画助言や事務局受託、専門員派遣なども行っている。

①. 市民活動団体への助成プログラムの事務局受託

実施企業	業務内容	業務概要
積水ハウス（株）	「マッチングプログラム」（第16回）の助成事務局受託およびアドバイザー就任	市民活動団体への助成プログラムの協働事務局を受託。アドバイザーに永井事務局長が就任。プロジェクト助成に49件に総額約4,313万円を助成。
阪急阪神ホールディングス（株）	第12回「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」助成プログラムの助成事務局受託	09年度から開始した「未来のゆめ・まち基金」市民団体助成プログラムの助成事務局を受託。第10回で初めて実施した事業助成部門の継続助成に向けた設計や選定事務に協力。14団体（事業助成部門（継続）4件、団体助成部門10件）に総額827万円を助成。
阪神高速道路（株）	第1回「阪神高速 未来（あす）へのチャレンジプロジェクト」助成プログラムの助成事務局受託	2021年10月1日～2022年9月30日実施の「阪神高速 未来（あす）へのチャレンジプロジェクト」事業助成プログラムの助成事務局を受託。8団体に上限50万円を助成予定。2020年度は企画立ち上げを行い、2021年度より助成実施。

②. 企業等が行う社会貢献事業の助言・コンサルティング業務受託

実施企業	業務内容	業務概要
帝人（株）	「ボランティアサポートプログラム」の団体のデュエディリジェンス・チェック	国内のグループ社員が取り組むボランティア活動の中から、活動費用を一部サポートする支援先を決定するにあたってのデュエディリジェンス・チェックを行った。

③. 新型コロナ対応支援（寄贈プロジェクト）への参画

実施企業	業務内容	業務概要
ソニー銀行（株）、（株）イノフィス	新型コロナ対応支援「マッスルスーツ Every」寄贈プロジェクト：ソニー銀行、イノフィスとの連携事業。	新型コロナ対応支援「マッスルスーツ Every」寄贈プロジェクトへの参画。寄付募集：2020年8月7日～2020年12月31日。寄付総額：3,227,341円。寄付者数：32件（30人、1社、1団体）。寄贈台数24台（寄贈先は関西13台、関東11台の団体・施設）。

④. NPOの組織基盤強化の企画受託

実施企業	業務内容	業務概要
武田薬品工業（株）	関西における保健医療分野の市民活動団体を対象とした組織基盤強化事業受託（NPOのサポートプログラム第2期）の企画調整	関西に拠点を置く保健医療分野の市民活動団体が、長期療養の子どもたちとその家族が直面している課題の解決に向けて、持続性・発展性のある支援ができるよう、広く啓発を行うと同時に、希望する団体に伴走型の支援を行う事業について内容を企画し、武田薬品工業と合意。実際のプロジェクトについては2021年度実施予定。

⑤. 企業等が行う社会貢献事業の助言・コンサルティング業務受託

実施企業	業務内容	業務概要
SAPジャパン	SAPジャパン西日本支社CSRプロジェクトの企画	NPO（社会的孤立状態になりやすい子どもたちへの支援に取り組む市民活動団体）との連携により、子どもたちにプログラミングやキャリアに関する学習の機会を提供するプロジェクトについて、SAPジャパンと企画会議を行った。実際のプロジェクトについては2021年度実施予定。

⑥. 企業とNPOの人財交流（出向受け入れ）

実施企業	業務内容	業務概要
花王（株）	「中間NPO人的支援」出向社員の受け入れ	花王（株）の「企業とNPOの人財交流プログラム」により社員1名（谷垣哲也）の出向を受け入れている。

2. 教育・研修・研究事業**（1）社員向けボランティア講座の受託開催、および企業関連の講師派遣依頼**

2019年度に企業や労働組合等からの講師派遣依頼は12件（同9）あり、企業市民活動やCSR等のテーマでの依頼は2件（同3）だった。

（2）「フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム（PCLF）」の企画運営

フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム（PCLF）は、企業の社会貢献・CSR・サステナビリティ・ESG・SDGsなどの担当者が2か月に1回、関連するトピックスについて学び、議論を行うフォーラム。2020年度のPCLFは、年度テーマを「ウィズコロナ・アフターコロナ時代における社会課題と我々ができることを考える」とし、例年通りの実施を計画しておりましたが、新型コロナの影響により4月・6月のフォーラムは延期となり、8月よりオンライン開催を行い、12月まで毎月開催することにより、定例フォーラム全6回（2月開催含む）を行った。年度テーマや各回テーマを何にするか、講師を誰にするか、などの企画は、幹事会を中心にフォーラム会員自らが企画を進めているのが特長である。

①. 2020年度の会員企業・団体

2020年度の会員企業・団体数は26社・団体（前年度29社・団体。顧問・当協会含むと31）で、企業22社、中間支援NPO4団体であった。

【企業（22社）】 ※幹事会員（5社）は★印

- 大阪ガス(株)★/大阪商工信用金庫/オムロン(株)/カネカ(株)/関西テレビ放送(株)/近畿労働金庫★
- /住友生命保険(相)/積水ハウス(株)/ダイキン工業(株)/大同生命保険(株)/大日本住友製薬(株)/田辺三菱製薬(株)
- /(株)テクノアソシエ/西日本高速道路(株)/西日本旅客鉄道(株)/日東電工(株)
- /日本テクノロジーソリューション(株)/パナソニック(株)/阪急阪神百貨店★/阪急阪神ホールディングス(株)★
- /(株)マンダム/(株)YUI IDEA★

【中間支援NPO（4団体）】

- NPO法人エコネット近畿/(福)大阪府社会福祉協議会/(特)ジャパン・プラットフォーム
- / (特)わかやまNPOセンター

※2020年度の新規会員はNPO法人エコネット近畿。2019年度末で退会した企業・団体は(株)神戸製鋼所/積水化成成品工業(株)/一般財団法人ジャパングィビング2社・1団体。休会は(株)スーパーホテル1社。

②. 定例フォーラム

2020年度の定例フォーラムは新型コロナの影響により、4月・6月は延期なり、8月から12月まで毎月火曜日に年6回（2月開催含む）オンラインで開催し、のべ参加者数は274人（前年度246人。協会・講師等を含む）であった。

また、フォーラムの運営では、オンライン開催により会員企業の参加枠を設けず、他部門・他地区の方々の参加を促し、懇談会に代わり、After意見交換会を行い、講師・会員企業・団体の情報交換の場を設けるよう取り組んだ。



フォーラムでは熱心な議論ができました！

■2020年度テーマ「ウィズコロナ・アフターコロナ時代における社会課題と我々ができることを考える」

回/日	会場	テーマ	話題提供・講師	参加
第73回 (8/18)	オンライン	「ポスト・コロナから考える未来への大分岐」	斎藤幸平さん（経済思想家、大阪市立大学大学院経済学研究科准教授）	51人（18社・団体）
第74回 (9/8)	オンライン	「ウィズコロナ・アフターコロナ時代こそ医療・福祉を社会全体で考え直す絶好の機会です」	楠木重範さん（(公財)チャイルド・ケモ・サポート基金 理事長兼院長）	39人（11社・団体）
第75回 (10/13)	オンライン	「コロナ後の道しるべとしてのSDGs」	蟹江憲史さん（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 教授）	79人（16社・団体）
第76回 (11/10)	オンライン	「コロナ禍における世界との学び合い～被災地KOBEから～」	吉椿雅道さん（CODE 海外災害援助市民センター 事務局長）	32人（9社・団体）
第77回 (12/8)	オンライン	「よりよい未来に向かう復興 コロナ後の世界とグリーンリカバリー」	高村ゆかりさん（東京大学未来ビジョン研究センター 教授）	35人（10社・団体）
第78回 (2/9)	オンライン	「大阪・関西再起動ーコロナ禍後社会はどう変わる。これからどうする」	池永寛明さん（大阪ガス エネルギー・文化研究所 顧問）	38人（14社・団体）

③. フォーラム自主ゼミ「リンクアップ・ジュニア」の開催

PCLF会員企業の実務担当者の自主勉強会。参加団体は9社で参加者数13人（昨年同期13社15人）。2020年度はメーリングリストでの情報交換のみで、会合は開催されなかった。

④「リンクアップフォーラム幹事会」の開催

PCLFの参加型運営の要となる同幹事会で、フォーラムの企画検討を行うとともに、当日運営では講師との打合せやグループディスカッションのファシリテーター役を担うなど、幹事会メンバーを中心にフォーラム運営を行った。

- ・日 程：[幹事会] 2020年6月4日、6月18日、7月9日、8月26日、9月16日、10月29日
11月25日、12月24日、2021年2月1日、2月22日、計10回
- ・内 容：定例フォーラムの企画運営、会員企業・団体へのフォローと新入会員勧誘等
- ・メンバー：大阪ガス㈱、近畿労働金庫、㈱阪急神百貨店、阪急神ホールディングス㈱、㈱YUI IDEA、住友生命保険相互会社（オブザーバー参加）、(福)大阪ボランティア協会/事務局

（3）「はじめてのCSR・社会貢献講座」の開催

企業のCSR推進や社会貢献活動の新任（1～2年）の担当者を対象に、少人数での講義および個別相談会の基礎講座を2017年度から実施。2020年度は新型コロナの影響もあり定例開催は中止し、都度要請に応じた開催。

- ・日時：2020年10月30日（金）10時～11時 ・参加者：1人／1社・団体
- ・講師：江渕桂子、企業市民活動推進センター（CCC）運営委員

（4）NPOの現場を知る「新しい社会貢献をさぐる勉強会／意見交換会」の開催

- ①新型コロナ禍での新しい社会貢献をさぐる意見交換会の開催。 ・日程：2020年5月15日 ・参加者：17人
- ②「NPOの現場を知る～新型コロナ禍での新しい社会貢献をさぐる勉強会」をオンラインで開催。
 - ・講師：別府 一樹氏、認定特定非営利活動法人 トゥギャザー 常務理事／事務局長
 - ・日時：2020年6月15日（月）15時～16時30分 ・参加者：27人／1社・団体
- ③新しい社会貢献意見交換会の開催。 ・日時：2020年6月17日（水）19時～20時30分 ・参加者：9人

（5）「コロナ対策「届けるプロジェクト」ポリ袋で防護ガウンを作ろう」の開催

- 1部 ポリ袋で防護ガウンを作るワークショップ。2部 講演「福祉現場の防護ガウンニーズの現状。
- ・日時：2020年12月22日（火）19時～21時 ・参加者：会場8人／オンライン10人 合計18人
- ・講師：後藤 至功氏（佛教大学 福祉教育開発センター講師）

（6）「うめきた朝ガク」運営委員会への参画

毎月第4木曜日の午前7時30分から1時間限定で「うめきた朝ガク」を企画開催。主に梅田周辺で働く人を対象に、出勤前や通学前等のすきま時間にソーシャルなシャワーを浴びて、フレッシュな気持ちで1日を始められる場を提供した。2020年度はのべ274人が参加し交流した。運営は企業のCSR担当や元担当者、NPOやソーシャルビジネスに取り組む者や支援する者などが参画する緩やかなネットワークが担っており、当協会は、運営委員会の代表及び事務局を担っている（会場提供：2020年度は、コロナウイルスの影響によりオンライン開催）。

回	テーマ、登壇団体名	日 程	参加者数
74	身近な自然環境を保全するレンジャーズプロジェクト 河口秀樹（自然環境復元協会）	2020年5月28日	27人
75	認知症なっても輝けるまちへ！あなたのアイデアが未来を変える?! 森 安美（ゆめ伴プロジェクト in 門真実行委員会 総合プロデューサー）	2020年6月25日	25人
76	市民メディアの可能性～一記者と考える 中尾卓司（元毎日新聞記者、フリーランス記者）	2020年7月30日	45人
77	コロナ禍と災害支援と寄付先選び～時間のある人は時間をお金のある人はお かねを、そして、まず知る好奇心を～ 長谷部治（神戸市兵庫区社会福祉協議会）	2020年8月27日	20人
78	コロナ禍のNPOや地域活動団体を応援するオンラインセミナー 「Reスタート！」を振り返る 南貴美子（大阪ガス株式会社 近畿圏部 ソーシャルデザイン室）	2020年9月24日	21人
79	オンライン上に劇場を作る『仮想劇場』～コロナ禍の演劇の新しい形 橋本匡市（ウイングフィールド）	2020年10月22日	29人
80	いのちの大切さを伝え、子どもたちが笑顔で育つまちをみんなで作る 福田留美（NPO法人にしよどにこネット）	2020年11月26日	22人
81	恒例の12月よる忘年会は今年はオンライン！	2020年12月10日	15人
82	大阪くらしの今昔館の『いま』～コロナ禍におけるミュージアム～ 酒井裕一（大阪くらしの今昔館ミュージアムボランティア「町家衆」、大阪あそ 歩認定ガイド）	2021年1月28日	22人
83	コロナ禍でも動いた地域ボランティア～ある「まち協」での挑戦～ 塩川恵造（関西テレビ放送、大阪ボランティア協会企業市民活動推進センター 運営委員）	2021年2月25日	25人
84	元ガス会社社員プロデューサーの挑戦！映画「にしきたショパン」（3.20全国 公開）の魅力とは 近藤修平（映画プロデューサー・喫茶店経営・ビジネスコンサルタ ント・元ガ ス会社社員）	2021年3月25日	23人